

令和4年度市民意識調査結果（報告書の確定版から）

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

佐倉市では、将来都市像「笑顔輝き 佐倉 咲く みんなで創ろう『健康・安心・未来都市』」の実現に向けて、「市民協働の加速化、持続可能なまちづくり」、「健康寿命の延伸・生涯活躍の場の創出」、「子育て世代の流入・定住促進、子育て支援施策等の維持拡充」、「計画的な施設・インフラ整備の推進、持続可能な財政運営」を重点目標として掲げ、様々な事業に取り組んでいる。

本市民意識調査は、佐倉市の取組に対する市民の皆様からの率直なご意見等をお聞かせいただき、施策の実施・評価の参考とすることにより、行政サービスの向上を行うとともに、将来都市像の実現を図るために実施したものである。

(2) 調査の設計

この調査は、以下「調査種類」欄に記載しているA～Cの3つの調査から構成（調査の対象者数は合計4,200名で、調査ごとに3グループに分かれる。）。

調査地域	佐倉市全域
調査対象	市内在住の18歳以上の男女
調査種類	A票：市民相談、防災、障害福祉、健康づくり、都市計画・公共交通、道路環境、環境保全 B票：子育て支援、学校教育、スポーツ振興、青少年健全育成、高齢者福祉、生涯学習 C票：情報発信・共有、広聴、平和・国際化、資産管理、文化・芸術振興、観光振興、商工業振興、農業振興、地域福祉、コミュニティ ※各調査の共通設問：回答者の属性、施策の重要度・満足度、市政に関する自由意見等
対象者数	A～C票それぞれ1,400名（合計4,200名）
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出 （令和4年3月末時点の地区別人口構成比と市全体年齢別人口構成比を参考に、男女別（1：1）に住民基本台帳から無作為抽出）
調査方法	郵送配布、郵送回答・電子回答（ちば電子申請サービス）
調査期間	令和4年8月1日～8月31日

(3) 配布・回収結果

調査の種類	配布数	有効回収数 （うち電子回答数）	有効回収率 （うち電子回答率）	前回回収率（R3）
A票	1,400枚	417（94）	29.8%（22.5%）	36.7%
B票	1,400枚	438（116）	31.3%（26.5%）	34.3%
C票	1,400枚	423（95）	30.2%（22.5%）	31.3%
合計	4,200枚	1,278（305）	30.4%（23.9%）	34.1%

(4) 本資料の見方

○各項目の回答の構成比は、回答数を回答者総数で除し、小数点第2位を四捨五入して第1位まで表示。このため、合計が100%にならないことがある。

○問37の自由記述の回答は、回答内容に基づき分類を行った。

(5) 調査項目

○第4次地域福祉計画の成果指標として、2つの設問を実施（P2・3）。

○包括的な支援体制の検討に向けて、自由記述式を含む2つの設問を実施（P4～6）。

○【民生委員・児童委員】に関する2つの設問を実施（P7）。

○各調査共通設問としての自由記述式設問を実施（P8・9）。

2. 調査の結果（抜粋）

（4）C票

（情報発信・共有、広聴、平和・国際化、資産管理、文化・芸術振興、観光振興、商工業振興、農業振興、地域福祉、コミュニティ）

問34

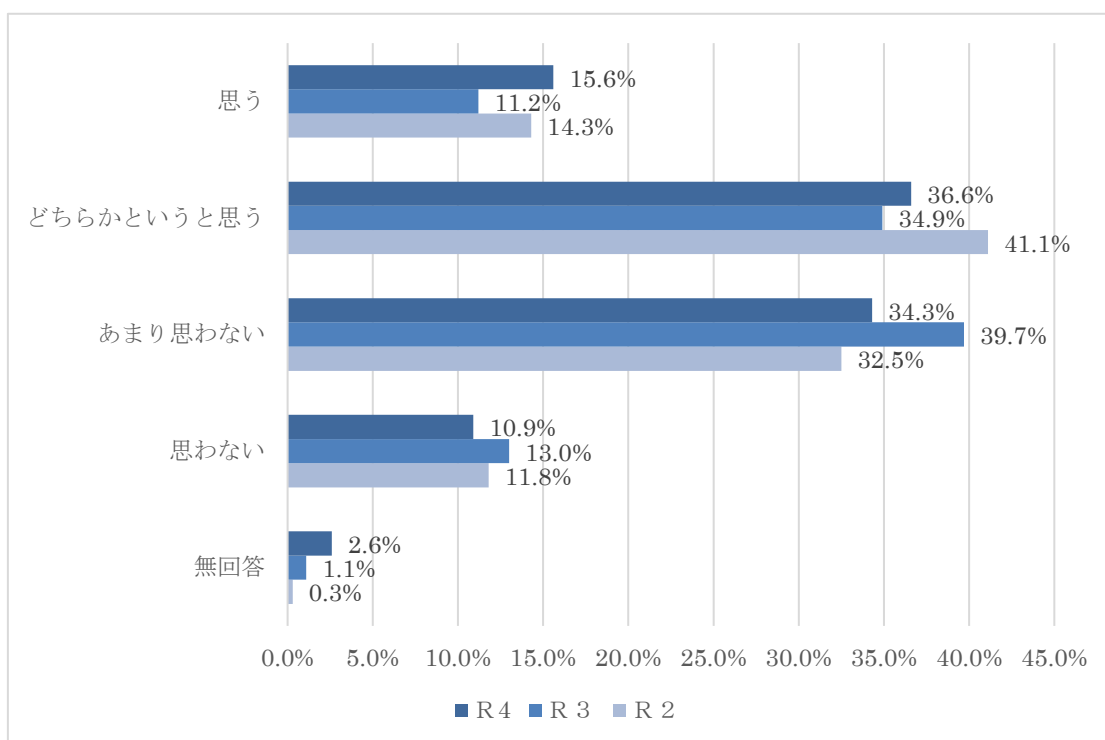
「災害時等に支え合いができるような、住民同士の交流やふれあい※が日頃できていると思いますか」 ※「ふれあい」には日々の挨拶などを含みます 【1つ選択】

※令和2年度から、一部表現を変更しています（「災害時等に、支え合いや助け合いができるような、住民同士の交流やふれあい（日頃の挨拶などを含む）が日頃できていると思いますか。」）。

※第4次地域福祉計画の成果指標は、「住民同士の交流やふれあいができると思う・どちらかというと思う意識」。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	成果指標	目標値（令和5年度）
思う	14.3%	11.2%	15.6%	52.2%	60.0%
どちらかというと思う	41.1%	34.9%	36.6%		
あまり思わない	32.5%	39.7%	34.3%	—	—
思わない	11.8%	13.0%	10.9%	—	—
無回答	0.3%	1.1%	2.6%	—	—

令和3年度よりも、「思う」「どちらかというと思う」の数値が上がり、「思わない」「あまり思わない」の数値は下がっています。



問 3 5

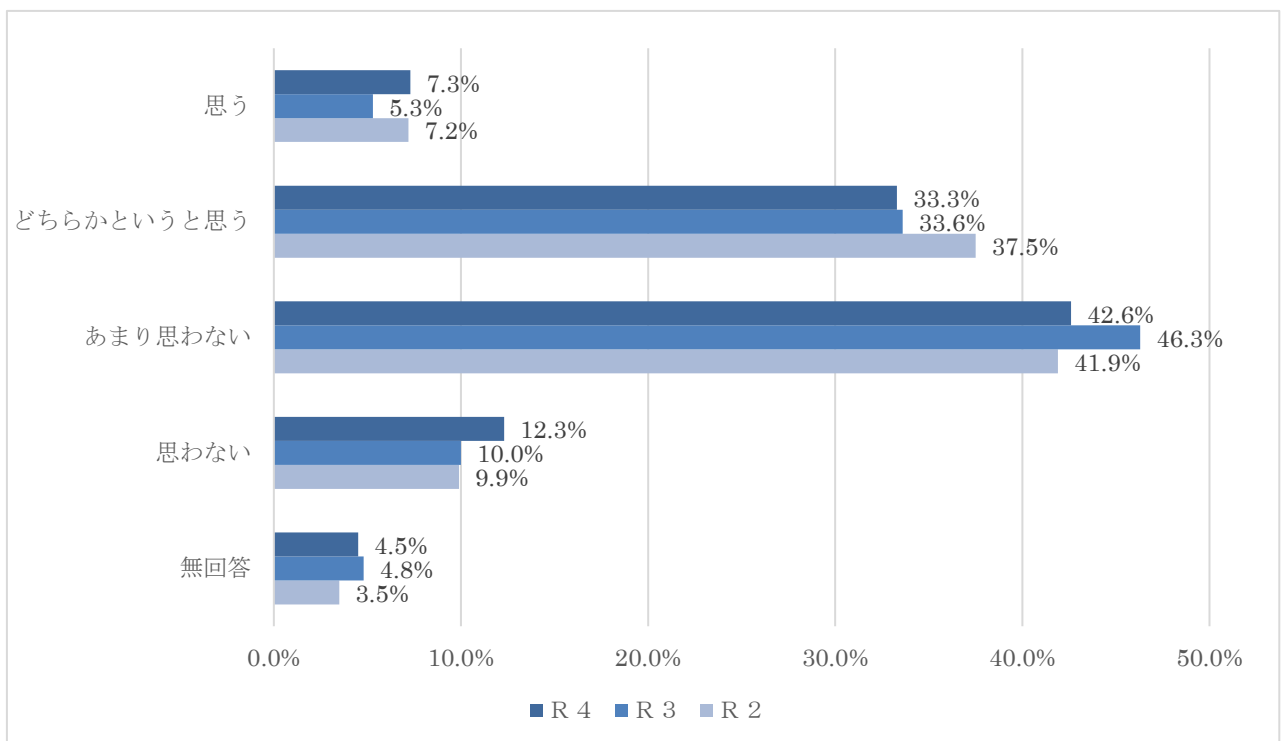
「**困りごと※があった時、相談できる場・支援を受ける事ができる環境等が整備されていると思いますか**」 ※介護、子育て、障害、病気やひきこもりなど 【1つ選択】

※昨年度から、一部表現を変更しています（「介護、子育て、障害、病気やひきこもりなどについて、相談したいことがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる環境等が整備されていると思いますか。」）。

※この設問は、包括的な支援体制の検討に向けて、平成30年度から実施。設問の表現は令和元年度に変更し（設問を具体的に記載）、令和2年度は変更なし。第4次地域福祉計画では成果指標。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	成果指標	目標値(令和5年度)
思う	7.2%	5.3%	7.3%	40.6%	45.0%
どちらかというと思う	37.5%	33.6%	33.3%		
あまり思わない	41.9%	46.3%	42.6%	—	—
思わない	9.9%	10.0%	12.3%	—	—
無回答	3.5%	4.8%	4.5%	—	—

令和3年度よりも、「思う」「どちらかというと思う」を合わせた数値があがり、「思わない」「あまり思わない」を合わせた数値は下がっています。



問 3 6

「前問に関連して、現在相談や支援が必要な状況にありますか」【1つ選択】

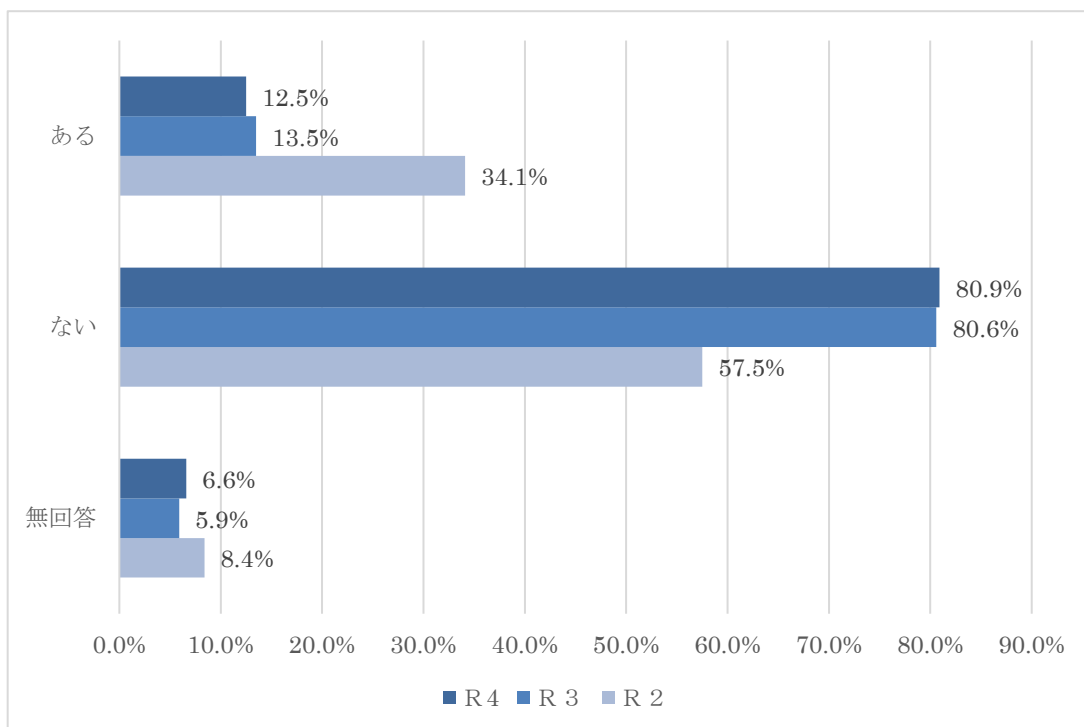
(※) 主な相談機関の例：地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、子育て世代包括支援センター、くらしサポートセンター佐倉（生活困窮者自立相談支援窓口）など

※令和2年度から、一部表現を変更しています（「前問に関連して、現在、相談ができる、支援を受けられる状況にありますか。」）

←昨年度、社会福祉課は、「前問に関連して、現在、相談をする、支援を受ける状況にありますか。」で質問作成依頼をしたが（環境等の整備を聞いたうえで、実際に相談をする、支援を受ける状況であるかを聞く意図）、全体の表現を確認する過程で、市民意識調査の担当課で表現を変更してしまったとのこと。

	令和2年度 (※参考値)	令和3年度	令和4年度
ある	34.1%	13.5%	12.5%
ない	57.5%	80.6%	80.9%
無回答	8.4%	5.9%	6.6%

令和3年度と、ほぼ同様の数値となった。



問37【自由記述】

「相談、支援の環境等についてご意見等がございましたら、自由にお書きください」【自由記述】

【窓口全般】

○	意識の問題だと思う！！困ったことがあったら「まず 何でも」市役所に相談してみるという納税者として「してもいい事」がわからないんだと思う。どうしていいか、人知れず悩んでいる人が多すぎる。市役所に相談すればどうにかなる事たくさんあるのに。どんどん相談して解決して、みんな幸せ感じられれば快く納税につながるはず。
○	困ったときに助けていただいたことがありました。
○	困った時にいつでも対応してくれる窓口があったら、もしくは、それを知らなくて困っている人がいる時に、どこに連絡したら良いかわかりやすくしてもらえたら良いと思います。
○	市役所、福祉協議会など相談をよくうけてくれる。ありがたい。
○	実際に、相談させていただいたりしています。
○	対応人員を増加させる事も必要
○	法律相談の日数を多く。
○	40-60代前半の人の困り事に関しての窓口が少ないように思う
○	窓口がわからない。会社員向けではない。(時間等)。
○	亡くなった母の支援相談で市役所の方が来ていただきました。母に対する対応が良くなく、はってでも動けるなら、要看護になりませんか！ 病気で相談しようと思いましたが、あんないやな思いをするなら相談したくない。
○	相談、支援を受ける人は基本弱っています。上から物事を言うような、若しくは威圧感を表に出している人達が居る様な所は必要ありません。(以前市役所で経験しました。)

【高齢者・介護】

○	親の介護申請で包括支援センター様にお世話になりました。平日だけでなく日曜日も開いているのが大変助かりました。(平日は仕事があるため)
○	訪問看護等の訪問系事業と、通所系事業との連携および事務所数の増加をしていき、引きこもり、ネグレクト、フレイルの予防が地域をあげてのとりくみから、もっと必要と思われる。
○	親が亡くなった時、どうしていいかわからない。自立していかないといけないので、自分一人になった時、どう生きていくべきかわからない。

【障害】

○	現在、私は適応障害と病院で診断され、一時復帰期間を除く会社を1年半程休職しております。健保からの傷病手当金の支給も終了してしまい、現在何の支援も無い状態です。現在の会社の仕事に戻る見込みは大変厳しく、この先就職先があるかどうか不安に思っております。
---	--

<input type="radio"/>	障害者手帳を持つ子供がいますが、こちらからではなく市の方から定期的に困っている事等の相談ができる体制を作してほしい。
<input type="radio"/>	障害者就労の多様性
<input type="radio"/>	精神疾患を患い、収入が減り困っているが、市役所に行って相談する以外に方法が見つからない。
<input type="radio"/>	精神障害 2 級であり、頼る者もおらず、災害時が不安である。私の様な者の、つながりをもてる場が欲しい。
<input type="radio"/>	発達障害について、相談できる場所、コミュニティがもっとほしい。

【子育て】

<input type="radio"/>	こどもの貧困についてスクールソーシャルワーカーをもっと増やして欲しい
<input type="radio"/>	子供にかかわる相談
<input type="radio"/>	私は男性で 3 人の子供がいます。佐倉市の企業で働いているのですが、会社には育休制度はありません。行政から企業に、男性の育休取得をしやすいようにはたらきかけてほしいです。
<input type="radio"/>	小さな子どもがいるが、働きたくても働けない状況なので、ベビーシッター関連の情報が欲しい。

【情報発信・集約】

<input type="radio"/>	周知されていない。あらゆるソーシャルネットワークを活用されているようですが、エンドユーザー視点ではないため、そもそも知らない、使い勝手が悪い、ユーザーが知りたい内容ではない、知りたい情報へのアクセスが悪いです。コンサル会社、もしくはプロジェクトマネジャーを導入（導入されていると思いますので、アセスメントして、リプレイス）することをお勧めします。
-----------------------	---

【その他】

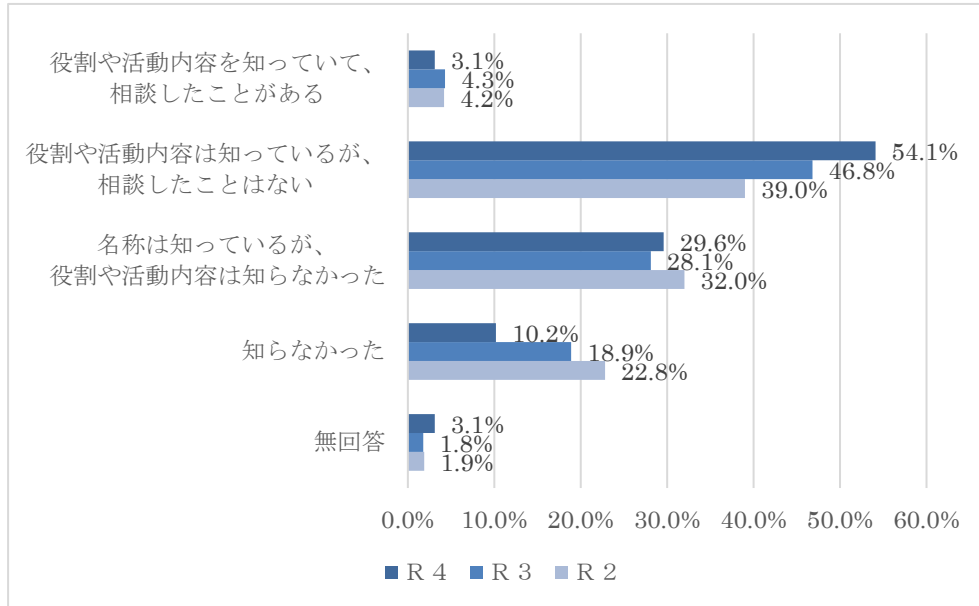
<input type="radio"/>	J R 佐倉駅からの東邦大病院と聖隷市民病院へ行けるバスを走らせて欲しいです
<input type="radio"/>	期待はしていない
<input type="radio"/>	近場にあまり病院や店がないので長時間家をはなれられない介護の人や子育て中の人は大変そうだと思う。車ないと動きづらい。
<input type="radio"/>	現役世代にも負担なくできることがあればいいです
<input type="radio"/>	高齢者はコミュニティができているのですが、最近来た人や若い方にはコミュニティが出来ていないので、構築できるようなイベントなどがあるとうれしいです。
<input type="radio"/>	特にございません
<input type="radio"/>	特にございません。
<input type="radio"/>	特にない
<input type="radio"/>	特になし
<input type="radio"/>	表に出ていない人をどのように発掘するかが問題であると思う。
<input type="radio"/>	何の資格も経験もありませんが、今年で 50 年生きてきたことになります。そんな私でも役に立てることがあればお手伝いしたいと思っています。

問 3 8

「民生委員・児童委員※の役割や活動内容を知っていますか」

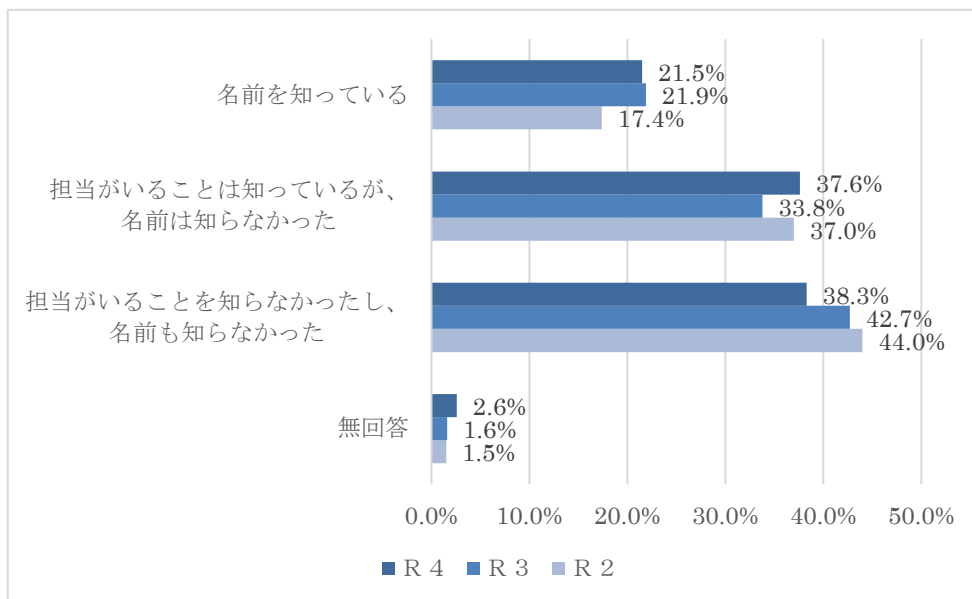
※民生委員・児童委員は民生委員法・児童福祉法に基づき、自らも地域住民の一員としてその地域に住み、主に高齢者、児童などの見守りや住民と行政とのつなぎ役を担っています

【1つ選択】



問 3 7

「お住まいの地域を担当する民生委員の名前を知っていますか」【1つ選択】



(5) 自由記述欄

自由記述欄

「ここまで、市民意識調査にご回答いただきありがとうございます。最後に、市政に関するご意見やご要望、まちづくりのアイデアなどがございましたら、自由にお書きください。」

(以下抜粋)

○	障害者（難病、がん、ストーマ他）に対する市政からの経済的支援が全くないのがどんなものでしょうか。体調的にアルバイトしかできず年収 1000 千では生活ができない状況の若者です。現在親の年金で生活してますが親の私がいなくなったらとても不安です。国の障害年金も相談しましたがむずかしいようです。経済弱者に対するより甚大な支援を検討してください。本人は真面目で一先けん命生きようとしています。
○	自然と歴史のある市なのでこれからも福祉や防災とかに力を入れて欲しい。
○	隣町の八千代市でマンションの管理人として働いています。最近管理マンション内にて孤独死があいついでいます。中には子供と同居していても亡くなるようなケースもありました。その時にいつも感じるのは、個人情報…法とかプライバシー等が障壁になって早く発覚してあげられないことです。地域の包括支援センターの皆さんも日々声掛け等の活動もされていますが、決め手になっていないように思われます。佐倉市でも恐らく同様の事例が増えているのではないかと思います。コロナ禍の中、人の生き死にが軽く見られがちであり、マスメディア等の取り上げ方もとても希薄に感じられます。
○	これからを担う、子供達の為に支援をもっと予算を使って貰いたい。また、同様に、これまで、佐倉市に貢献して下さった、高齢者及び病气等の理由で、生活苦になっている方達(コロナの影響を受けた個人経営者等)への支援にも、もう少しでも良いので、手を指し伸ばして貰いたい。市としては、行ってるつもりでも、まだ、それは一部分の人にしか届いていないと思います。あとは、市の施設へのアクセスの改善をして貰いたい。現在は車社会なのに、施設の駐車スペースが少なすぎると思います。公共交通機関を、利用するにしても、利便性が悪い施設も多くあると思うので、現在、運行している循環バスを、拡大利用して、市の施設を通るルート等も考えて貰えると、有り難いと思います。
○	市民の願いを傾聴し、市民のための地方自治に対する姿勢が見えてこない。生活困窮者への支援を積極的にすべき。
○	困窮して居ても自分からは言いだせなかつたりする人達を助ける方法を考えて欲しいです。移住者を獲得したり、少子化問題に取り組むことも大事だとは思いますが、どの世代の人も生きていくことを肯定できる社会を目標にして取り組んでいただきたいと思います。
○	私を含めシニアは、暇も力も知識もあるので、色々なサークルや集りが簡単に出来る場を設けて欲しい。(簡単なのが大事だと思う。) また困ってるお母さん達の手助けが出来たらと思います。(その様な手助けお手伝いサークルがあるといいな一と思います。) 宜しくお願ひします。

- | | |
|---|---|
| ○ | 一家の大黒柱を失った家族を様々な面で支えてくれるような、そんなやさしさや思いやりに満ちた行政であっていただきたいを思います。 |
| ○ | 個々の行政サービスが十分利用できることが基本ですが、その周辺にある問題解決へのサポートが共に大切。したがって、地域福祉と言われるようなことがより重要になると思います。 |